

第2回 第2次江別市観光振興計画策定委員会 会議録概要

日 時	令和5年10月3日（火）15時00分から18時00分
場 所	江別市勤労者研修センター2階 研修室2
出席者（7）名	委員長 / 藤本直樹 副委員長 / 北川裕治 委 員 / 山崎啓太郎、畠山真理、成田裕之、岡村恵子、奥平啓太
欠席者（1）名	委 員 / 内藤幸樹
傍聴者（0）名	-
事務局（5）名	経済部長、経済部次長、観光振興課長、観光振興課主査、観光振興課地域プロジェクトマネージャー
オブザーバー（3）名	第2次江別市観光振興計画策定支援業務受託業者
議 題	報告事項 ①江別市観光振興計画の評価 ②アンケートおよびヒアリング調査結果 協議事項 ①第2次江別市観光振興計画の観光像（案） ②第2次江別市観光振興計画の基本方針（案） ③第2次江別市観光振興計画の基本施策（案）

会議録

事務局	開会のことば
委員長	第2次江別市観光振興計画の策定スケジュールについて、事務局より説明願う。
事務局	<事務局よりスケジュールおよび進捗等に関する報告>
委員長	第2次江別市観光振興計画の策定スケジュールについて、質問・確認事項はあるか。
委員一同	なし。
委員長	報告事項説明の前に、前回委員会の協議内容について、振り返りの報告を願う。
事務局	<事務局より前回策定委員会の振り返りに関する報告>
委員長	振り返りの内容について各委員から質問はあるか。
委員一同	なし。
<b>■報告事項①：江別市観光振興計画の評価</b>	
委員長	報告事項①の江別市観光振興計画の評価について、事務局より説明を願う。
事務局	<事務局より江別市観光振興計画の評価に関する報告>

委員長	現行計画ができて、それなりに達成できたこと、しっかりと江別市において観光が位置づけられ、その計画に従って様々な施策が行われたりなど、江別市において観光のスタートを切れたメリットがある一方で、最初の観光振興計画だったため、計画論としても、アクションプランとしてもアンバランス、不十分であったところが見受けられるので、それらをできるだけ課題解決しながら、今回の計画に反映していければよいと考えている。現計画のレビュー、評価、振り返りについて、委員から質問や意見等はあるか。
委員一同	なし。
<b>■報告事項②：アンケートおよびヒアリング調査結果</b>	
委員長	報告事項②のアンケートおよびヒアリング調査結果について、事務局から説明を願う。
事務局	<事務局よりアンケートおよびヒアリング調査結果に関する報告>
委員長	アンケート結果や事業者に対するヒアリング結果には、かなり貴重な情報が含まれていると感じる。個人的にも、驚きや意外な側面を含めて結果を聞いた。アンケートとヒアリングを区切って意見等を聞きたい。まず、観光協会に所属している山崎委員や畠山委員に、アンケート結果と普段の印象と一致しているか食い違っているか、意外な発見などあったか聞きたい。
畠山委員	観光という側面では、45%が観光したことがないという数字を見ると、札幌近郊の数字としては大きいと思った。ということは、まだまだ江別近郊には、江別に来たことがない人がいるということだと思う。周遊しない傾向については、改めて課題が残っていると感じている。意外な回答としては、江別市民が市内で過ごす方が多い中、市内の方が観光に興味がない。情報が行き渡っていないか、食指が動くものがないのかと思うので、まだ市内の方に訴求できるかと思う。
委員長	まだまだ伸びしろがあり開拓余地があると前向きに捉えるのか、まだまだ伝わっていないと捉えるか、捉え方はある。個人的にも同様に感じた。山崎委員はいかがか。
山崎委員	畠山委員に同意している。やはりな、という感覚。自分たちの界隈の方々と、関わっていない方々との温度差を日々感じている。興味がない方をどう取り込むかは、これまでやってきて難しい課題と感じているが、そこをなんとかしなければ進まないと思う。また、観光振興計画自体がもっとキャッチーになり、みんながそこに向かっていくというものになれば、興味をもってもらえるのではないか。
委員長	観光振興計画を策定しただけで自動的に進むわけではないので、策定後にどのように求心力を持たせ、思いを共有し連携していけるかという、今後の推進体制についても計画に盛り込まれると予想しているが、作って終わりではなく、どう活かしていくかを含めてこの委員会で考えていければいいと思う。北川副委員長は職員だったと思うが、率直な意見やデータを見て感じることはあるか。
副委員長	驚きはない。驚いたのは、久しぶりに計画を見ると、成果指標がなく、活動指標しかない。評価としても何をやったというだけで、アウトカムもない。何を成果としてやったかわからない計画だったのではないかと。様々な取組の結果、どれだけ達成できたのかを評価できない計画になっていたと思う。アンケート結果は、そのまま受け入れるだけだと感じている。観光とは何かと考えたとき、蔦屋書店に行くのは観光でレンタルショップのTSUTAYAは観光ではないのかや、町村農場でアイスを食べたら観光なのかと言うと違うと思う。森林公園に行く人が増えて誰が幸せになるのか、と思う。活動指標として、観光とは何か、みんなにとって何がベストかと考えると、経済的にみんなが潤うことだと思っている。拠点施設の売り上げや雇用の増加などを目標としなければ、みんな同じ方向に向けないのではないかと思う。そのため、自虐を含めて、この評価は妥当なものだと感じている。
委員長	副委員長は、意外なところはなく、この数値を冷静に受け止めるしかないの話だが、個人的には休日江別市内で過ごす層が、江別で満足しているから江別で余暇の時間を楽しんでいるのではない、ということを改めてアンケート結果として示されると、言われてみると、アクティブな人は札幌のオータムフェスタに行ったり、岩見沢にJOIN ALIVEに行ったりなど、色々動く中で、江別のイベントや公園などに行くのだと思う。色々回っている人が、その時の状況に合わせて市内で過ごしているのだという気づきを改めて得られた。奥平委員は、江別出身の若い世代として、アンケート結果が自分の感覚と一致しているのか、違うのかなど含めていかがか。
奥平委員	アンケート結果は、自らの感覚と一致していると思う。感想としては、伸びしろがあると思う。50%のアクティブ層は、江別市外に行ってしまうが、市内で面白いことがあればアクティブ層はそこに向き合ってくれるだろうと思う。25%程度の観光に興味がない層へのアプローチは難しいところがあると思うが、まずはアクティブ層に江別の面白さを届けることで、今まで興味なかった層にもじわじわ刺さってくるのでは、と感じている。
委員長	どうやって興味がない、だから動かないという人に、情報や魅力を届けるのか。一回来てもらい、つまらなければ、その上で不満足であれば、それは事業者等の企画側の責任にもなるが、そこを掘り起こせていない。印象が薄く、ブランド力がないということに繋がるのだと思う。岡村委員は、ご自身でも加工品の生産販売に携わっており、江別のブランド力や印象が弱いという意見もあるが、それを含めてこのアンケート結果をどう受け止めたか。

岡村委員	やはり、というのが正直なところ。発信力が弱いのが大きいと思う。来訪頻度が高いほど次も来訪するという点についても、自分たちのイベントでもタクシーで札幌からでも来てくれる方は、リピートしてくれる。一度、江別の良さや面白みを実感した人は再訪してくれる。そのためには、情報を発信しながら、こうやっていけば、という形をまず作ることが大切だと思う。北川副委員長もおっしゃっていたが、前計画が色々なところで知られていないということが一番ネックだったのかと思う。評価をするということが今までなかった。商品のブランド力などは、市役所や観光協会、商工会議所などで、できあがったものに対しては力を入れてくれ、EBRIなど提供する場所も増えてはいるが、当社のような小さいところは衰退して、どんどん減っていく状況ではある。場所の提供や開発に対する支援などの必要性を改めて感じた。認知してもらえるような発信力が必要だと思う。また、それを活用したお店や飲食店等の横のつながりなど、そういったPRできる場所が必要だと思う。改めてそういった反省を感じた。
委員長	情報発信と横の連携がまだまだ足りていないだろう、ということが浮かびあがったということで理解した。成田委員は、江別在住者向けが多いと思われるイベントや仕掛けを日々企画していると思うが、普段仕事をしている状況を含めて、このアンケート結果をどのように感じたか。
成田委員	正直に言って、驚きは無い。情報発信の難しさを感じる。決して発信していないわけではなく、ブランド力がないわけでもないと思うが、届かない。その原因は何なのかと思う。イベントに行く人には軽い発信でも届く。自発的な検索をせず受動的な情報収集をしている多くの人には、いくらいつも通りの発信をしても届かない。そういう人に届けるためにも、コスプレやゲームなど色々な要素があると思うが、どういった発信をすれば引かかってくるのか、多角的な発信ができていないと思った。
委員長	解決策が多岐にわたり、すぐに解決できるわけでもないが、成田委員のご発言に個人的に納得できるのは、例えば、奥平委員が何かイベントを企画し、情報発信協力依頼が来て、奥平委員がFacebookで発信し、私もシェアするとしても、対象が被っている。山崎委員がおっしゃる界隈の中では幾重にも情報が伝達していくが、そこから離れている人に届くような情報発信ができていない。観光協会のHPをマメに見る人には伝わるが、そうでない人には伝わらない難しさがある。もう少し具体的なアクションまで、次回の委員会までには様々な事例を勉強し直すなどして、計画にも盛り込み、肉付けできたらと感じている。
事業者ヒアリング	
委員長	事業者によって意見がばらばらというよりは、かなり集約されているよう思う。ブランド力が弱いということに関して、他都市との差別化が重要だということや、横断的のつながりが弱く、手続きや情報発信、相談、問い合わせがワンストップでできないという、観光が抱える構造的な課題が浮き彫りになっている。行政がもっとイニシアチブを取ってほしいということや、産学官連携が十分でないという意見は、総論として同意するが、産学官連携が何を指しているのかは、現在、学の方で学生と共に活動したり、大学として協力できることに多少なりとも活動している自分としても、やりたくない、興味がない先生を巻き込めないなどの悩みを感じながら話を聞いた。北川副委員長にお尋ねするが、コロナ禍からの回復傾向にあるが、人手不足などによってという情報もあるが、コロナ前後で観光や飲食、宿泊等のサービス業の状況は変わっているか。
副委員長	総括的に調べていないのでわからないということを前提に、一般的には、観光地やホテルは人が足りないと言うが、江別はそういったことはないと思う。コロナで急に悪化したということは感じておらず、徐々に高齢化で減少していき、若い人も少なく働く人がいなくなっていると感じている。
委員長	ニュアンスとしては、コロナ禍で活動ができなかった時期から、コロナ禍が明けて活動が活発になってきたときに、高齢化などによるジリ貧の状況がより明らかになってきたということか。
副委員長	そうだと思う。タクシーなどで、70歳を過ぎており、これを機に営業もできないので廃業したという人も多い。コロナがそういった最後の一押しをした悪い部分が見えているのかもしれない。一般的に言えば、人口は増えないので、海外から人が来ることを期待するが、制度面を含めて海外から多く人が来ているわけではないので、コロナによってそういった苦しみが増えたとはいえないか。
委員長	ありがとうございます。島山委員にお尋ねするが、今年度は特にコロナが明けて、法律も変わり、市内イベントなどもコロナ禍前の水準に戻つつあると思う。そうすると、イベントに適した時期は重なり、市内でのキッチンカーの供給などにも限界があると思う。そういった意味での人手不足は現実的にありそうか。
島山委員	現実的にはある。加えて、イベントなどに関しては、コロナ禍によって市内イベントのノウハウが途切れたのが一番痛手だったのではないと思う。例えば、今まで学生と繋がっていた大麻文京台の市民夏祭りが今年復活していないのは、高齢化や学生との連携が切れてしまってノウハウがないため、今年ではできないという判断だった。印象としては、野幌などの若手が入り、うまく世代交代ができていくところのイベントはできている印象がある。そうでない場合の相談を受けることもたまにある。また、イベント時期ももちろんかぶるので、そこで頑張る人は同じ人になってしまい、それが継続的にできる体制なのか疑問に感じている。
委員長	リアルな状況報告をありがとうございます。それ以外に意見はあるか。
奥平委員	ヒアリングで産学官連携の難しさが指摘されているが、札幌でそういった活動をしていて同様に感じる。地域と家庭と学校の連携を図ろうという動きが教育関係では進んでいるが、コミュニティスクール構想という、コーディネーター的な、それぞれの立場を結びつける役割がいたり、行政と事業者がタッグを組んで、例えば「35歳集まれ」といった声掛けのような、横断的な場を作ることによって、コミュニティやネットワークが生まれ、プロジェクトが動き出すこともあると思うので、そういったところにヒントがあると感じた。

委員長	連携する土壌が普段から作られていると、何かをやりたいときの協力体制や情報発信体制などをとりやすいが、コロナによってそういった繋がりが弱体化したり途切れかけてしまった。これをどのように立て直したり、その反省や教訓を活かし、どういう体制でこれから新しい計画の5年間を進めていくのか、あわせて考えていきたい。
■協議事項①：第2次江別市観光振興計画の観光像（案）	
事務局	<事務局より第2次江別市観光振興計画の観光像（案）に関する説明>
委員長	次期計画の観光像、基本方針、施策の考え方についてご説明いただいた。13ページでは、市長のビジョンである食・農・日帰り周遊ということや、現在策定中の第7次総合計画という上位計画を踏まえて、4つの側面から課題を列挙されている。江別市の観光関連市場、マーケットの状況であったり、江別観光振興計画の反省点や課題であったり、市民アンケートから今回改めて浮き彫りになったことや事業者ヒアリングから要望や提案があったことなどを踏まえて、次期計画の二本柱として、プロモーション、情報発信と魅力的な観光の中身、コンテンツを造成していくことについて異論はないか。山崎委員いかがか。
山崎委員	コピーに関してではなければ、異論はない。
委員長	北川委員も異論はないか。
副委員長	2本柱は良いと思う。順番はないと思うが、コンテンツがあるならプロモーションが先にくるし、その逆もあるのではないか。それぞれの順番を考えてほしい。
委員長	恐らく、事務局は、後先、主従の関係はなく、相互に影響を与え合っているということ表現しており、序列はないということ表現しているものだと思う。情報発信が足りないという指摘は色々なところで受けるし、中身の磨き上げも必要だということは良いと思う。そのうえで、次期計画の構成として、現行計画の構成であるキャッチフレーズ「こち好いえべつ」に、基本方針3つと具体的な施策・取組がぶら下がっているが、項目が列挙されているだけで、検証や達成度の確認という面で現計画は十分な機能を果たしていないかもしれない。それに対して次期計画では、キャッチフレーズとしての大きな方針が決まれば、それにぶら下がる基本方針がぶら下がり、それを実現するための取組が並ぶことがイメージできる。キャッチフレーズについても、本日決められるのであれば決めたいと個人的に思う。奥平委員にお尋ねするが、キャッチフレーズの案1と案2のどちらが良さそうか。このどちらかに決められるのか、決めて良いかなど、ご感想、意見はあるか。
奥平委員	課題にもあったが、計画を事業者に認知してもらい、行動に移してもらうには、いかにキャッチーかということが重要だと思うので、案2の方が柔らかい表現で良いと思う。特に、「思い立ったら、えべつ」というところに加え、現計画のビジョンの「発見」という要素には再発見という要素があると思うので、そういった要素を組み込めないかと思った。
委員長	サブタイトルにもう少し何かを組み込めないか、という意見で理解した。畠山委員はいかがか。
畠山委員	イメージの持ちやすさとしては案2だと思う。どう魅力的に映るかという点ではすぐに思いつかないが、みんなどう思うのかなと思う。どういう魅力が伝わるかなと思う。
委員長	今のご意見は、パンチ不足ということか。それとも計画として、次の計画に行くのに、悪くはないが、新規性がないという印象があるということか。
畠山委員	「緑とレンガの映えるまち」だけで人が江別に来たいと思うだろうか。
委員長	緑は、野幌森林公園が意識されているだろうし、レンガというキーワードも、現計画から引き継ぎ、江別を意識する言葉として使われている。個人的には案2で悪くはなく、伝わりやすいと思うが、岡村委員はどうか。
岡村委員	「思い立ったら、えべつ」というのが良いと思う。思い立ったらすぐ江別に行けるような、そんな方針になってくれるような言葉が入ると素敵だと思う。どちらがいいかと言われると案2の方が、やわらかい食卓をイメージでき、風景としての緑とレンガが良いと思った。
委員長	江別を知っている人には色々な情景が浮かびそうではある。むしろ、岡村委員は「思い立ったら、えべつ」というサブタイトルの方がいいと感じたということか。「思い立ったら、すぐえべつ」という七五調にした方がいいなどはないか。少しコマーシャルのようになってしまうか。成田委員はいかがか。
成田委員	個人的には案1も嫌いではない。ただ、広く知ってもらうことを考えると、農と歴史はピンとこないのかなと思う。誰でもそうだなと思えるのは、案2だと思う。このままでいいのかは別の問題としてあるが、色々な人に響くのは案2かと思う。

委員長	案1で「フォトジェニック」のような、日常的に使用しない言葉を混ぜることで、印象に残る側面はあると思う。あえてカタカナ言葉を使うことで、いわゆる「映える」ことをフォトジェニックという言葉で表現していると思う。山崎委員は、普段デザインの仕事をしていて、キャッチコピーやタイトルをご自身で考えることもあると思う。また、専門のコピーライターと組んで仕事をすることもあると思うが、山崎委員の感覚、センスとしてはいかがか。
山崎委員	率直に言ってよいか。
委員長	厳しい意見か。
山崎委員	厳しくはない。
事務局	その前に、改めて言いたいのが、事務局サイドとしては、必ず案1か案2とは考えていない。2案の変形などや、1と2を足して案3が出るのもありだと考えている。ただ、前提としては、前回委員会で方向性を確認したことや、市長が目指している食と農などが表現されればよいと思っている。絶対的にこの2案でなければいけないということではない。
山崎委員	率直に言って、計画をみんな知らなかったところからいくと、長かったり、堅かったりすると覚えてもらいにくいと思う。市長の考えや総合計画の趣旨を盛り込みつつ、違う案があると良いと思う。コピーライターが入っているのか、事務局で作成しているかはわからないが、もう少しキャッチーなコピーだと嬉しい。趣旨は良いと思う。
委員長	少し情報を盛り込みすぎて長いという印象か。
山崎委員	そのコピーをもとにみんなが動こうというコピーになっていないと思う。これでポスターを作ると、当たり障りないポスターにしかならないと思う。同じことを言っている、言い方や言葉の使い方などでかっこよく、わかりやすく、また市民が誇りを持てるようになると思う。
委員長	ありがとうございます。もう少し事務局にヒントになるようなことはないか。どうアレンジしたり、考え直したりすればイケてるキャッチフレーズになるか。
山崎委員	コピーライターが入っているのか。
事務局	入っていない。
山崎委員	コピーライターが書くものとそうでないのは全然違うので、コピーライターを入れることを検討してほしい。内容が同じでも視点が違う。
委員長	表現や言葉のチョイスが変わると印象に残ったり、そのままポスターや計画書の表紙に使えたり、ということと理解した。その際に個人的に心配なのは、あまりにもキャッチーで伝わりにくくならないか、賞味期限が短くなるのではないかと思う。そこは、コピーライターはそういった点も斟酌した上でベスト、ベターな提案をしていただけるということで、心配はないか。
山崎委員	コピーライターの腕にもよるが、そういった条件を伝えた上で発注すれば良いと思う。
委員長	そういったリレーションや考え直す時間はあるか。
事務局	まず、コピーライターに依頼する業務仕様になっていないので、事務局として検討する必要がある。また、スケジュール的には、少なくとも観光像の方向性を今回決めなければいけない。次回は、字句修正等があったとしても、計画の素案としてお示したいので、その時点でコピーを考えるということにはならない。イメージや方向性、最低限必要なところをある程度揉んだ上で、一堂に会する場ではないところで調整させていただきながら、第3回委員会を迎えるのが精一杯かと考えている。もしくは、山崎委員と相談させていただきながら、委員長、副委員長、事務局で揉むのが良いかと思う。

委員長	事務局側で色々な条件やキーワードを漏らさず作っていただいた案で了解を得られないのであれば、事務局にて再検討をする必要がある。特に、パブリックコメントから逆算したスケジュールは動かせないのも、数ヶ月揉むことも難しい。この条件で依頼できるコピーライターの方がいれば、上がってきたものに関して、山崎委員、市、委員長、副委員長で合意できるものとして、第3回素案に盛り込むか、事前にキャッチフレーズだけ別途メールで別途協議するか、どちらかだと思うがいかがか。
山崎委員	よろしい。
委員長	市としてもよいか。
事務局	案1、案2のイメージをもとに、基本方針等がぶら下がってくる立てつけにしているの、上のキャチコピーが大きく変わってしまい、下の政策に合わないようなものと厳しいということはお伝えしたい。第3回で決めるということにしても間に合うかは、事務局内で検討する。コピーライターに基本方針等についてもよくご理解いただき、作成いただく必要がある。コピーライターに依頼するとしても、次の委員会までにキャッチコピーを含めて決まっている状態にしたい。また、観光像にぶら下がる基本方針や基本施策等のコンセプトを大きく変えることは想定していない。コンセプトは変えず表現や文言を修正していくことは可能だが、来週中にすべて話を通っていないといけないと考えている。
委員長	来週中に決定というのは、かなりタイトなスケジュールだと思う。時間がないというのは十分理解できる。ただ、私は事務局が心配しているような捉え方をしていない。山崎委員を含め、方向性に関して異論はないが、言葉の表現のテクニカルな部分がかっこよくなく、キャッチコピーとして弱いのではないか、来年度からの5年間の計画を標榜する用語としては十分でないのではないか、という意見だと思う。方向性や使われている用語、伝えたいことを再度見直すということにはならない。専門ではないところから出る意見は五十歩百歩なので、プロの力を借りたらどうかという提案だと思う。スケジュールが合うのであれば江別市としては飲み込めるのか。
事務局	一からコピーライターを探すことは難しいと感じている。また、これまでプロに頼んだ経験がないので、費用感やスケジュール感などがわからない部分がある。実際の所、頼めば2、3日で決められるものか。
山崎委員	そういったスピード感のある方をお願いすれば可能だと思う。個人的にはこういった行政系の計画では、コピーライターにお願いしないことが多いと思うが、コピーライターを入れることでブランディングという部分では変わってくると思うので、個人的には入れてほしい。
事務局	山崎委員からご提案いただいた内容を中心に、事務局に預けていただければ、委員長、副委員長に最終的なお目通しを願い、第3回で報告する形で各委員が合意できればそのような手続きで進めたい。
委員長	事務局からご提案があった方向で進めていただけるのであれば、費用面やスケジュール感は当事者間で確認いただくとして、やりくりが可能であれば、チャレンジなことをこの計画内で取り組んでみても良いと思う。副委員長はよろしいか。
副委員長	よろしい。
委員長	では、それで各委員よろしいか。
委員一同	よろしい。
委員長	確認だが、文言の表現は技術的に改良してもらい、大きな方向性や思いは大きく変えるつもりはないということを前提に、本会を進めたい。
<b>■協議事項②：第2次江別市観光振興計画の基本方針（案）</b>	
事務局	<第2次江別市観光振興計画の基本方針（案）に関する説明>

委員長	基本方針は、次期計画の構成や基本施策に繋がる切り口だが、新規客・初訪客・再訪客という3つのターゲットに合わせて潜在的な新規開拓客、数回の来訪に留まる方、リピーターに合わせた戦略をそれぞれ考えるべきではないかということで、わかりやすいと個人的に感じたのは、ターゲット層に対するアプローチ戦略として、Reach届いて、Gripつかんで、Hold離さないというのが、手順としてわかりやすいと感じた。基本方針は、各ターゲットに合わせて設定されており、それぞれ認知度向上、満足度向上に繋がる施策となっているように見受けられる。岡村委員にお尋ねするが、わかりにくいところや、感想など、何か意見はあるか。
岡村委員	分かりやすいと思う。分けやすくて、届ける提供の仕方が変わってくるということが明確にされており、わかりやすいと感じた。
委員長	成田委員はいかがか。
成田委員	アプローチ戦略についてはわかりやすく、良いと思う。
委員長	北川副委員長はいかがか。
副委員長	隙が無くよい。問題はどやってやれるかで、人と金がないこと。
委員長	山崎委員はいかがか。
山崎委員	ターゲット層として、新規客と一括りにされているが、主婦など色々あると思うので、それぞれ戦略的にブランディングが変わると思う。戦略的なブランディングとして、歴史的なものや景観・イメージ、食を軸とするプレミア感の醸成などは若い人向けではないと思うので、若い人向けのプロモーションや新規客へのアプローチが弱いように思う。
委員長	新規客に関する具体的な中身の中で、属性に応じた工夫などがもう少し書き込めればいいのか、基本方針レベルで年齢や性別などを意識した表現が必要か。
山崎委員	単純に年齢層が上の方に向けたプロモーションが中心になっている印象を受けた。
委員長	それは各施策などを見ているからそう見えているということでよろしいか。
山崎委員	よろしい。
委員長	畠山委員はいかがか。
畠山委員	山崎委員同様で、ターゲット層が広いという印象を受けた。新規や再訪など、この3つの中に様々なターゲット層がいると思うので、この3つで可能なのかなという思いがある。施策をぶら下げることで、層が分かれるのかもしれないが、第一印象としては実際のターゲットがどこに向いているのかわからないと感じた。下の施策との関連もあるので、大きく変える必要はないと思う。
委員長	奥平委員はいかがか。
奥平委員	まとまっていたわかりやすいと思う。
委員長	概ね好評だが、個人的には、新規客と初訪客という言葉が取り違えられ、誤解を生むのではないかと思うが、この用語を使用している意図は何か。
事務局	新規客、初訪客という用語は仮定義をしている状態であり、この用語にこだわる必要はないと考えている。また、スライド15の表をそのまま計画に掲載する予定はない。そもそも、計画でターゲット層を記載する想定をしていないが、書いた方がわかりやすいという場合には表現を検討する余地はあると思う。
委員長	計画の中で用語やターゲットを明記することを考えていたわけではなく、基本的施策や具体的取組などを考える上で、想定しやすい区分として、この3区分を挙げていると理解した。また、もう一点確認したいが、KGIという言葉が載っているが、最終目標としての数値を書き込むほうがよい、あるいは書き込まなければいけないというお考えがあるということか。
事務局	これからご説明する基本施策や細分施策部分に関わるが、協議段階であり、必ずこれらの指標をKGIとして計画に載せるということはない。
委員長	あくまでも一つのアイデア、項目として現在記載しているということか。

事務局	KGIになり得る項目として記載している。
委員長	承知した。その他異論はないようなので、事務局から基本施策を説明願う。
<b>■協議事項③：第2次江別市観光振興計画の基本施策（案）</b>	
事務局	<第2次江別市観光振興計画の基本施策（案）に関する説明>
委員長	具体的項目がかなり多いが、まずは北川副委員長にお尋ねしたいが、現計画でほぼ触れられなかった数値目標であるKGI、KPIを、本計画で設定するという点についてはいかがか。
副委員長	実効性を高める、責任をもって目標に進む上では必要だと思う。なければ評価もできず、またなんとなく書いたものをなんとなくやったということになりかねず、それはよろしくないと考えている。ただ、なぜ書いていないかという点、そう簡単にはいかない部分がある。作った数値が正しいかわからないことに加え、達成できなかった場合に、コロナ禍だったか熊が出たか、何かできなかった理由を作ることになる。どれだけ必要かは議論があると思う。前計画を評価するにあたり、なぜKPIがないのかという話になるが、前計画策定時にはその時の事情があったのだと思われる。全体がもりだくさんで、山崎委員が指摘したように、世代的な不足があるのでないかという議論もあると思うが、まだ見てもわからない。また、そもそも誰が主体でやるのかもわからない。全部行政がやることもできず、民間でも事業者ごとにはできないということがあると思う。そのため、もう少し分節化するなかで、みんなが共通してできそうなことに対してはKPIがあった方がいいと思うし、全部作る必要もないと思うし、全くないのもどうかと思う。
委員長	私も数値的目標に関しては、数値で表現でき、妥当な達成度が計れるものであれば、入れるべきだと思うが、事細かくいい加減な目標値を掲げるのは意味がないと思う。ただ、近年の行政計画で、数値目標に全く触れないのは違和感があり、また、更に5年後に何も振り返りができないのもおかしいと思う。北川副委員長に先にお尋ねしたが、主要な項目に関して数値目標が妥当な根拠やデータで示せるのであれば盛り込み、そうではないものに無理やり数値目標を入れる必要はないということではいいか。
委員一同	よろしい。
委員長	KGIやKPIの扱いは工夫、検討の余地があるので、本編に入れてしまうのか、第6章の推進体制や実施体制といった章などに混ぜ込んでしまうか、資料編に回すのか、扱いは様々あると思うので、事務局で検討願う。何らかの主要項目については数値目標を入れるということでご理解願いたい。具体的な細かい項目ごとにKPIはいらないと思う。レベル感としては、細分施策の各ブロックの中で、KPIを設定可能なものがあれば載せるという理解をしている。KPIがあるものとないものが生まれてしまうアンバランスは、個人的には気にしておらず、計画書としては、冒頭に「本計画のKPIは主要なものに限定した」というような、設定に関するエクスキューズを加えれば、違和感はないと思っている。細分施策の項目ごとのレベル感で1つないし複数のKPIが設定できるのであれば設定をし、満足度の向上のような事業終了後にアンケートが必要なものなどはあえて載せる必要はないかと個人的には考えている。そういった理解の中で表現を検討するという点で、事務局はよろしいか。
事務局	細分施策はやった・やらない以外の指標として、質と量の兼ね合いもあり、観光という分野に関しては数値目標が非常に立てにくいと感じている。新しい取組が多く、やるだけで精いっぱいということを感じている。観光入込客数も、計画の施策によって伸びたのか、計画がなくても事業者が頑張ったから伸びたのかどうか、わからない。スケジュール的には次までに決めたいので、委員長、副委員長と揉んで、次回委員会に持って行きたいと考えている。細分施策ごとにKPIを立てるのは難しいという印象を持っている。
委員長	事務局が言うように、数値目標になるが、数と質の関係もあるので、目標自体が立てにくい意味があるのかという懸念は理解できる。一方で、近年の他都市の観光振興計画の書きぶりや、KPIの設定について事例を調査した上で、各委員が了承できるのであれば、委員長、副委員長、事務局に一任していただき、数値目標の書きぶりをどうするのか、KGIという大きな目標だけは数値として設定し、KPIという個別の目標は表に出さないのか、資料編に書けるものだけまとめて書くかなど、扱い方を含めて一任いただけるか。北川副委員長はいかがか。
副委員長	よろしい。



委員長	ありがとうございます。そういった数値目標などを気にして仕事をしてきた立場の人間を中心に詰めさせていただきたい。ご理解願いたい。他にお気づきの点、ご質問等はあるか。
成田委員	ターゲットの問題にもなるが、今、コロナから戻り、インバウンドも戻る中、外国人観光客に関しては記載しなくてよいのか、というのが一点。また、二次交通の検討という事項で、再訪客は江別に来る前にどんな交通があるか調べてくる人が多いので、レンタサイクルを借りに来る人も、レンタサイクルがあるということを知ったうえで借りに来ており、初訪客がターゲットになるかと思う。この二点が気になった。
事務局	計画記載時は必ずしも再訪客をターゲットにすると記載する想定はなく、あくまでも面的連携の強化という意味で、レンタサイクルの活用強化を二次交通の検討として入れている。新規・初訪関係なくレンタサイクルを使用してもらえればと思う。インバウンドについては、そこに力を入れてみたいという事業者もいたのも事実。一方で、インバウンドのこれまでの取組としては、市単独で外国人向けに動くのがなかなか難しいところがあり、広域周遊観光の促進として、さっぽろ連携中枢都市圏に江別市も参画しており、連携中枢都市圏のH P内で江別のページを作ってもらい、小樽や札幌に来た人に江別に来てもらおうと考えている。また、来てもらった時に受入が難しいと感じている部分もある。セミナーや接客講習などで意欲的な方を巻き込みつつ、受入環境整備を進めていけたらと思う。インバウンドへの意識が全くないわけではないが、ただ計画書を読んだときにインバウンドへの取組意識が見えない部分があるので、インバウンドを含めた施策もあるが、記載ぶりを検討する必要があると思う。
委員長	インバウンド向けの独立した項目を作ることは難しいかもしれないが、さっぽろ連携中枢都市圏協定であったり、周辺市町村と連携の上で、インバウンド受入についても検討をするとか、事業者を育成するといった触れ方に留まるかもしれないが、ノータッチでは物足りないのでは、どこかにインバウンドに関するフレーズがあってもいいのではないかと思う。事務局は、無理なく触れることは今のところ考えていないのか。
事務局	これまでターゲット層は道央圏で、基本的には日本人観光客に絞っていきたくて考えており、観光像も気軽にふらっと訪れられるということを目指して設定しているので、その観光像との齟齬がないように設定する必要があるかと思う。現時点では、本計画でインバウンドという要素を無理やり詰め込むと、計画の方針がずれる可能性があるのでは、インバウンドという言葉が見えないように、施策の一端として記述する程度に計画の見せ方としては留めるべきかと考えている。また、インバウンドの考え方として、わが町の観光は何かということが問題だと思っている。従来はインバウンドを意識した観光を行っていない。江別の観光はふらっと立ち寄れるということだと考え、そういった観光像をイメージして、現計画を策定した。それは、道央圏の近隣市町村から立ち寄ってもらう、さらに距離を少し伸ばしてその隣町をターゲット層としてやってきたという経過がある。一方で、成田委員がおっしゃる通り、最近の観光は、必ずしもテーマパークなどがあるから観光ではないとも言われている。どれくらいの度合いでインバウンドについて書き込むか検討の余地がある。近隣市町村との連携の中で、訪れた外国人観光客を取りこぼさない、という程度にするのかなど、まさしく観光振興計画の策定のこの場で議論いただくべきかと思う。事務局としては当初そういったことを想定して今の形になっているということも補足したい。
委員長	計画論、計画書としてのアウトプットとして、事務局がおっしゃっていることは理解できる。一方で、市民や観光関連事業者に計画を伝えていく過程や、パブリックコメントの段階で、異論がいくつも出たときに突っぱねられるのか、多様な属性を持った観光客という言葉に含まれていると言っても伝わりにくい。対市民など、理解してもらって相手方が一般の方になればなるほど、触れないという選択肢も難しくなると思うので、触れた方がいいのではないかと個人的には感じる。コンセプトから逸脱しないという線引きも理解できるが、山崎委員はインバウンドに関してどう思うか。
山崎委員	委員長と同意見。市民や業者からそういった意見が出ることが予想される。また、言葉を選ばずに言えば、今時海外の方を相手にしないというのはないのかなと感じている。小さくても良いので入っていると良いと思う。
成田委員	細い施策や取組案として入れてほしいというより、触れないのはおかしいので、「インバウンドも意識した」といった書き方を取組内容部分でしてもらいたいという意図で言った。実際、レンタサイクルにも外国人が来ている。一言も触れないのは難しいのではないかと改めて質問した。
委員長	主たるターゲットに異論はないが、レンタサイクルなどの取組が、外国人観光客にも適用できるということや、横展開できるといったような記述があればいいのではないかと思う。今後の色々な意見が出されることを予想すれば、インバウンドや外国人観光客というフレーズを出さなくていいというのは個人的には難しいと思う。奥平委員はいかがか。
奥平委員	私も同意見。これからの観光を掲げるビジョンとして触れないのは難しいと思うので、上手に文章に含めていければいいのではないか。
事務局	現計画では14ページにだけ「道外からの観光客誘致は増加する外国人観光客への対応といった視点も持ちつつ、道央圏からの誘客を目指します」としているのだが、基本施策に盛り込むのは難しいので、こういった形でインバウンドについて記載することはあるかもしれない。現計画レベルで良いのかという意見もあると思うので、どこまで盛り込むのかを検討していきたい。
委員長	承知した。畠山委員はいかがか。

畠山委員	一つ一つの施策でターゲットを明確に意識していたわけではないので、ターゲットは広く持って都度個別にということだと理解していたのだが、違うのか。
事務局	先ほどおっしゃっていただいたように、新規客、再訪客といったターゲットは包括的なもので、その中で年代や性別など様々なターゲットがあり得る。そのため、基本施策でターゲットと書いているところは、その施策の中でより細かい分類で絞り込めるような表現として書いている。
委員長	他に意見等はあるか。
奥平委員	まずはこういった案を作成いただいたことが嬉しく、感謝したいというのがある。その上で一点心配なことがある。次期計画の骨子案では、観光というもの、新規客、初訪客、再訪客と、すべて来てもらう人、客に向いていると思う。前回委員会ではもっと大きな視点があり、それは教育や学びという視点が出されていた。観光と言えばお客さんに向かうものというものの以外に、もう少し広い視点で、観光を教育という広い視点で結ぶという議論であったと思う。現在、科学大学や札幌の学童フリースクールで、子どもたちを真ん中に置いた観光振興をプレーヤーとして行っている中で、教育が観光で果たす可能性が大きいと実感している。点を結びつけるための施策として、セミナーや研修などを実際に行っていると思うが、子どもや学生、修学旅行生などを含めることで、関係人口がぐっと増え、新規客、初訪客、再訪客以外にも、一つ大きな視点が含まれたものができあがるというと思う。市が掲げる像として「発見」があるので、教育という視点も含められればと思う。
委員長	奥平委員のご意見は、教育という要素を人材育成や産学官連携の中でもう少し強調してほしいということなのか、江別に来るお客さんだけではなく、江別を舞台とした教育という行為・行動が観光の一環なのではないかということか。
奥平委員	双方当てはまるが、後者が大きいと思う。ここで計画を策定して観光を進めていくことを学生等に伝えて、巻き込んでいけたときに、初めて計画が市民のものになると思う。
事務局	前回もこの議論があったと思うが、学びというのを目的に来訪する方が多くなっており、観光ニーズが多様化している。外から来る人の学びというニーズがある。教育旅行など、修学旅行誘致の可能性があるというのが一つだと思う。また、エベツマルシェしかり、外部と内部が一体となって行うことで、いろいろな学びがある。出店側にも学びがあり、来る人にも学びや発見がある。レイヤーが異なっているかもしれないが、大事なところに学びというものがあるという議論が前回あったかと思う。
委員長	おっしゃっていることは理解できるが、それを計画書にどのように落とし込むかという観点で考えると、まだ私の中では消化できていない。
畠山委員	また来たい、ということ言うと、学びがあるから再訪するということになるかと思う。「現有資源の掛け合わせによる新たなアクティビティの創出」というところ言うと、認知度の高い施設やイベントの活用や、ナイトタイムエコノミーの活性化など、かなり具体的に記載されているので、新しいコンテンツ造成として江別ならではの学びを活用したコンテンツの活性化など入れ込むことは可能なのではないか。観光協会としても子どもたちの学びは重視しているので、入れてもらえればと思う。
委員長	一項目の一部として入れることであれば、理解しやすいが、奥平委員や事務局の補足は、もっと上位のところに入れることをおっしゃっているように感じたので、それをどこで消化できるかまだピンと来ていない面がある。
事務局	畠山委員がおっしゃるように、細かなところでニュアンスを入れていくのは良いが、キャッチコピーとしてそういった全体を踏まえて検討してもらおうということで良いのではないかと。
委員長	広い意味での学びや体験、教育という要素が各項目にちりばめられていれば、最低限の目標は達成できるということか。
事務局	教育や学びという要素を排除しているわけではなく、それらを入れ込んだというイメージで考えてほしい。例えば、基本施策のブランディングについて、山崎委員から年齢向けが多いという意見があったが、「地区ごとの特徴のイメージ化」などでは、小中学生等をターゲットとした地区のイメージ絵本の作成などの取組を想定していた。また、初訪客の基本施策として、「広域周遊観光の促進」があるが、こどもパスポートにより教育的要素を結びつけるということも想定していた。また、ハンズオンや体験参加型イベントには、子どもだけでなく、子どもがいる家族を巻き込んで学びの場を作っていきたいという気持ちもある。学びや教育という言葉そのものは入っていないが、そういった要素を入れ込める余地を作って検討している。
委員長	ニュアンスとして、学びや子ども対象なども盛り込んで項目出しをしているので、次回そういった書きぶりがなされているか判断してもらえればと思うが、奥平委員はそれで良いか。
奥平委員	よろしい。

委員長	その他にご意見がなければ、私から申し上げたい。二次交通は江別の課題としてあげられるが、二次交通としてレンタサイクルだけでは物足りない気がするが、この計画期間内に実現できなくても周遊バスの運行検討などの全国の観光地で行われて始めているような、公共交通サービスや観光モビリティの一環としてのグリーンスモールモビリティのような電動車など、そういった手段の実現可能性を検討するなど、幅広い書きぶりや工夫の余地があるのではないかと。意図をもってレンタサイクルのみを取り上げているのか。
事務局	市民アンケートなどから二次交通が不足していることは前から言われており、一方で、前計画でもなかなか取り組めなかったのが二次交通となっている。コロナ前に周遊バスも取り組んだが、コロナでバスやタクシーなどを手配しにくい状況にあると聞いている。5年の計画なので、できることを探すという書きぶりはできると思うが、市民の足がままならない状況を考えると難しいと判断したため、こういった書き方になっている。ただ、委員長が言うように、レンタサイクル一本での検討は物足りない部分があるので、できることを探す、試行する、といったことは記載できるかと思う。
委員長	ありがとうございます。事業として実施する、実現するといった書き方は難しいと思うが、検討や実証実験に向けた関係者協議を行う、といったことや、国等のサポートを得て実験や実証するという積み出しがもう少し必要かと思う。
副委員長	個人的には難しいと思うが、レンタサイクルの一行では物足りないというもある。できれば入れたいが、結果を出すのが難しい。ただ考え方だと思われる。今一番多いのはカーシェアで、野幌駅に一台置いておけば使える。また、現在見晴台で行っている乗り合いタクシーを工夫することもできる。書いて絶対できないということではなく、何かできるかもしれないという方向での記載は可能だと思う。
事務局	計画なので、少し背伸びをしなければいけない部分もあるので、ご意見を参考にまとめた。
委員長	カーシェアは敷居が低そうに思われる。
富山委員	カーシェアは市内でもすでに何か所かあり、大麻駅付近にもあるが、発信ができていない。レンタカーをどこで借りられるか協会に問い合わせがあることもある。空港で借りる人もいるが、江別まで電車で来た方がレンタカーを借りられる場所がわからないため、協会としても情報発信をしていきたい。情報を集めて発信することはすぐにできることかと思う。
委員長	すでにある環境を強化していく方向であれば書きやすいと思う。二次交通の強化をレンタサイクル一本でいくのは後々難しいと思うので、もう一工夫検討してほしい。その他、ご要望、ご意見、ご質問を含めて、岡村委員いかがか。
岡村委員	受入態勢の構築というところで、ボランティア研修の実施や案内機能の強化とあるが、ボランティアを集めるのはなかなか難しい。そういった中で、有料のボランティアや案内人制度があってもいいのではないかと。そうすることで専門意識を持った人が出てくるのではないかと。文章として入れるかどうかはあるが、そういったことも考えて、案内機能の強化を検討してもらえれば良いと思う。「観光客と主体の協働促進」のところで、主体になるのはどこのかが疑問。
委員長	ご質問としては、ボランティアに頼るばかりではなく、プロとしてのガイドなど、有料でのガイドの可能性も含めて文言、表現として書き込めないかということと、ハンズオンや体験型イベントのコーディネートやプロデュースを誰が行うのか、事務局としてイメージを持った項目出しなのかという点について、事務局はいかがか。
事務局	ボランティア研修は、イメージとしては観光協会が無償のボランティアガイドをやっており、ガイド育成研修を実施しているので、その支援などを手厚くする必要はあるという趣旨で載せている。また、おっしゃる通り、これだけのことをコーディネートする人材については、地域プロジェクトマネージャーがやっていた部分もあるが、任期が切れるので、そこを含めてのボランティア研修や観光人材の育成も含めて伝わるような書き方ができるか検討したい。
委員長	岡村委員のご指摘の二点目であるコーディネーターの育成については、恐らく人材育成や産学官連携の中にニュアンスとして含まれていくことかと思う。誰が、という限定的書き方は難しいように感じている。また、ボランティア研修は、観光協会の事業を応援する意味での書きぶりになっていることを理解いただいた上で、ボランティアに限らない、有償ボランティアやプロのガイドなど、観光地として成熟していけば必要な機能になると思うので、今回の計画に書き込めるのか、江別の観光地としての熟度としてその必要があるのかなど、検討の余地がある。
岡村委員	体験型コンテンツが色々あるが、現実的な話では、そういった体験型コンテンツを、農家に朝早くやってくださいとお願いするより、実際の経験がある人に有償で声掛けした方がいいのではないかと感じた。
委員長	プロとしてというレベルではなく、ボランティアの中には、日当や交通費等の実費を支払ったうえで有償ボランティアとしてコーディネートや企画運営をする人を増やすというのは大賛成であり、そういった理解が良いか。

岡村委員	よろしい。そういったことを覚えておいていただきたい。
委員長	今回の程度の書きぶりになるか不明だが、江別の観光が徐々にレベルアップしていくときには、岡村委員のご指摘がより一層必要になる時がいずれ来るのではないかと感じている。
事務局	岡村委員のご指摘に関して、農業者のところに見学依頼が来ており、一生懸命対応している農業者は、本当に頑張ってくれている。行政がこのような催しなどを企画する際に、本業がある中で特定の人に負担が偏ってしまうことがあるのも事実。それを考えると、そこに対する手当を考える必要があるということ、そういったことをプロとして行っている人材もいるので、そういった人に協力してもらうことも含めて、この計画に入れることは別として、行政、観光協会がそういった視点を持って、観光サービスを提供できるように、努力したい。
委員長	ありがとうございます。その他に入れ込みたいニュアンスや書きぶり等はあるか。
委員一同	なし。
委員長	次回の委員会では、これをベースに文章が肉付けされ、観光振興計画の素案としてお示するという運びとなる。目次案は本日は議論しなくてよいか。
事務局	よろしい。
委員長	では、章立てを含めて素案が次回出てきたときに、その構成や流れを含めて検討すればよいか。
事務局	現状、スケジュールの都合で、前倒している部分があり、場合によってはメールで各委員に確認いただいたり、委員長、副委員長を含めて相談させていただき、その内容を次回冒頭に確認しながら進めるという形もあり得ると考えているので、ご協力願いたい。次回委員会では、今回の議論が文章化され、現計画と近い形で素案をお示ししたい。そのため、観光像のキャッチコピーなど、細かいところが決まっていないが、そういったものがある場合は、随時委員長、副委員長にご相談しながら進め、第3回委員会では素案という形でお示ししたい。
委員長	最終的にパブリックコメントから計画の決定までのスケジュールを考えると、案件によっては、第3回委員会の前にメール協議を各委員にご依頼することもあるかもしれない。また、キャッチコピーなどは、山崎委員と委員長で中心となって相談したり、KGI・KPIに関しては委員長と北川副委員長とで個別に相談させてもらったりなど、同時並行で行いながら、第3回のスケジュールに遅れないように、しっかりと準備できるような形で今後進めてまいりたい。その他に次回日程などで事務局から連絡事項はあるか。
事務局	次回は10月末か11月初めで日程調整を行っており、会場などが決まりたい皆様にご連絡する。それまでにもメール協議などさせていただくこともあると思うが、ご協力願いたい。
委員長	(閉会の言葉) 以上で、本日皆様にお諮りするすべての事項の協議は終了し、これをもって第2回第2次江別市観光振興計画策定委員会を閉会とする。